

I 赤谷プロジェクトについて

赤谷プロジェクトは、群馬県みなかみ町北部に広がる「赤谷の森」と呼ばれる約1万ヘクタール（10km四方）の国有林で、関東森林管理局、地域協議会及び自然保護協会の三者が協定を結び、「生物多様性の復元」と「持続的な地域づくり」を目的として、協働で森林生態系管理を行うプロジェクトです。

赤谷プロジェクトでは、赤谷の森を森林生態系の流域ごとのまとまりと人の利用の歴史に合わせて大きく6つのエリアに区分し、管理していくこととしています。

赤谷プロジェクトの中で最も重要な会議が「企画運営会議」です。この会議でプロジェクトの意思を決定します。

また、赤谷の森では、植生や猛禽類についてなど多方面にわたる調査・研究活動が行われています。そのため、これらの内容を統括し、各調査・研究活動などについて科学的立場から助言を行う「自然環境モニタリング会議」と各分野ごとに具体的な調査・研究等を行うワーキング・グループ（以下、「WG」とします。）があります。

現在活動しているWGは、①植生管理、②猛禽類モニタリング、③ほ乳類モニタリング、④溪流環境復元、⑤環境教育、⑥地域づくり、⑦フィールド利用管理の7つです。各WGの活動は、プロジェクトの中核となっている三つの機関の関係者が外部の専門家とともに進めています。

なお、プロジェクトの趣旨に賛同されたボランティア（以下、「サポーター」とします。）の方々も毎月第一土曜日・日曜日（以下、「赤谷の日」とします。）にプロジェクトの活動拠点である「いきもの村」（みなかみ町相俣地区にある国有林の旧苗畑跡地を再整備した施設）に集まり、赤谷プロジェクトを支える調査活動等を行っています。

